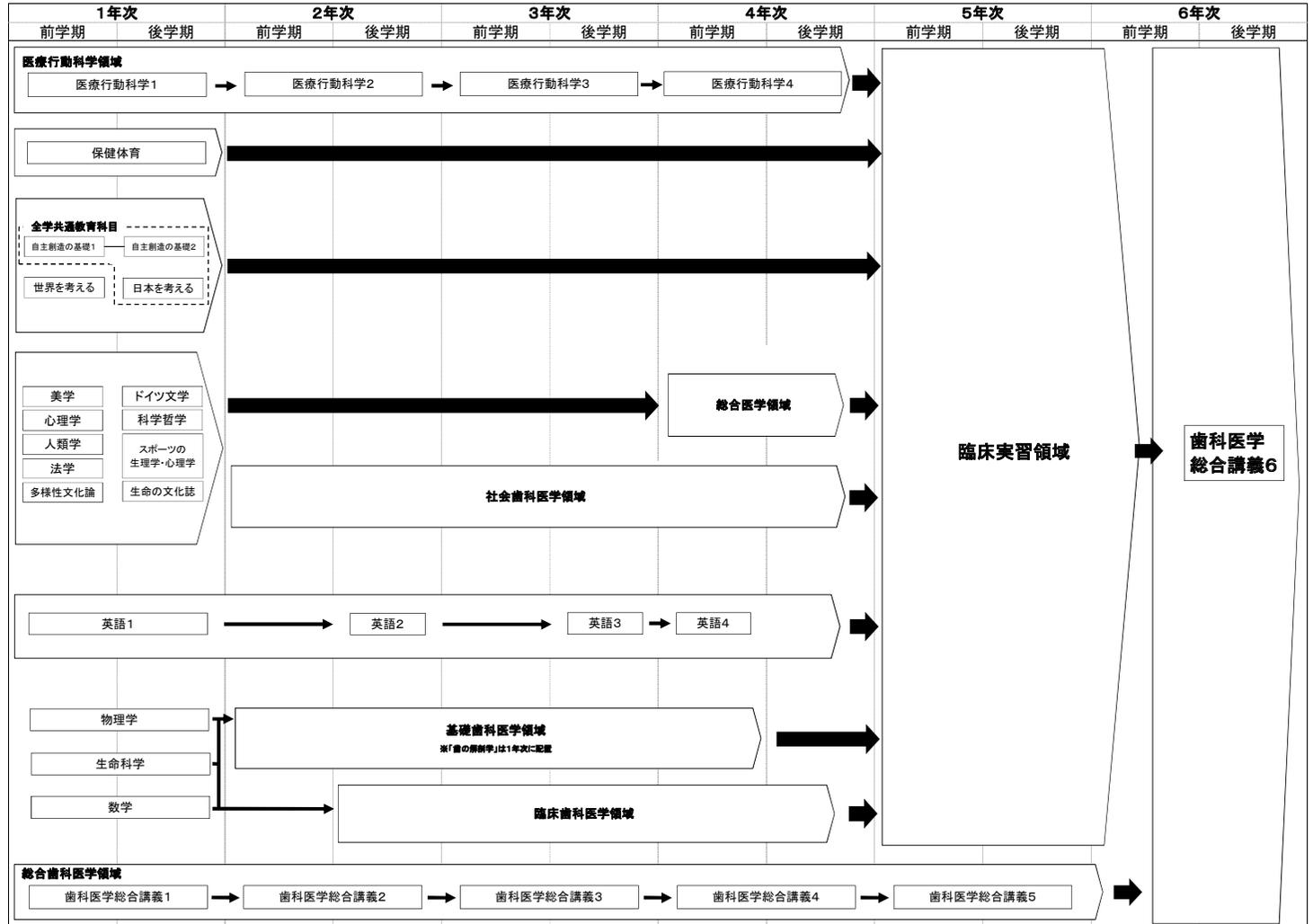
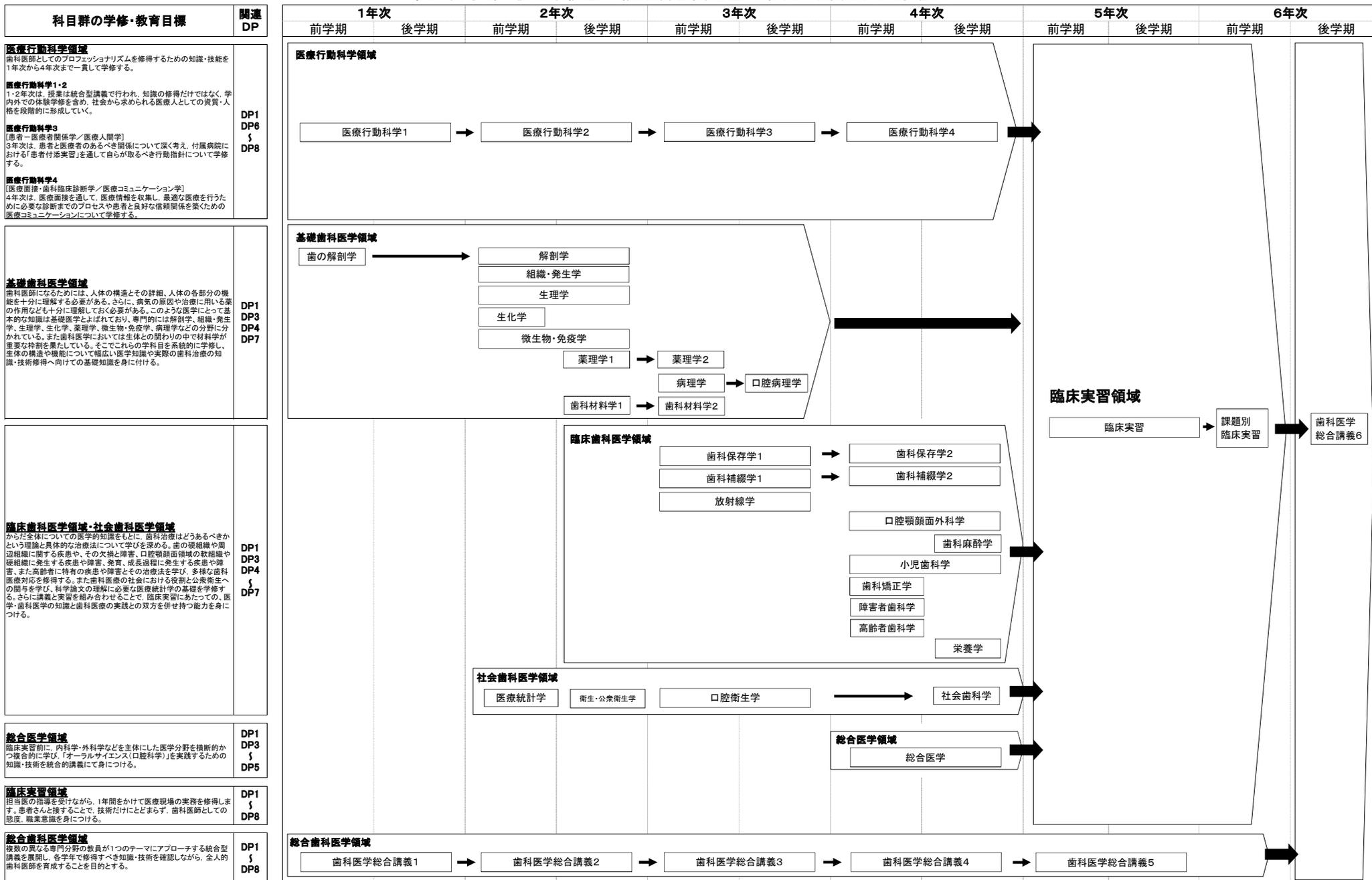


松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）(令和2年度以降入学者用)

科目群の学修・教育目標	関連DP
<b>医療行動科学領域</b> 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。	DP1 DP6 ↓ DP8
<b>保健体育科目</b> 健全な心身の維持・向上と、多くの実技実習等を通じた「社会性」の体得を目指した教育を展開する。	DP1 DP5 ↓ DP7
<b>教養科目</b> 歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。 全学共通教育科目【日本大学教育憲章コア科目】 ① 初年次教育科目「自主創造の基礎1・2」 日本大学教育憲章に示す「自ら考える」「自ら学ぶ」「自ら道をひらく」自主創造型パーソンの養成を目指した全学共通の初年次教育科目である。本学の理念、歴史を理解し、大学の学びに必要な能動的な学修方法の体得と学修習慣の定着を促進する。 ② 教養基盤科目「日本を考える」 本学の「目的及び使命」を踏まえ、世界との対比、過去や未来を見据えながら、日本の歴史・文化・社会・精神・自然・環境などを理解し、日本人らしさや感性を踏まえて、自ら世界に「日本」を発信することができる人材の育成を目指す。	DP1 ↓ DP8
<b>教養系領域</b> <b>（保健体育・教養・外国語・基礎教育）</b> 保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持・増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高める。歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎1」、「自主創造の基礎2」、「日本を考える」では、大学での学びやこれからの生き方において必要な日本大学教育憲章に示す基礎的素養を学生個々が身に付けることを主眼とする。また、実社会との関連から教養を学ぶ意義への理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実に寄与するものとする。基礎教育科目の「物理学」「生命科学」「数学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP2 DP6
<b>基礎教育科目</b> 「物理学」「生命科学」「数学」においては専門科目への準備のための科目と位置づけ、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP3 DP4 DP7
<b>総合歯科医学領域</b> 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 ↓ DP5 DP8

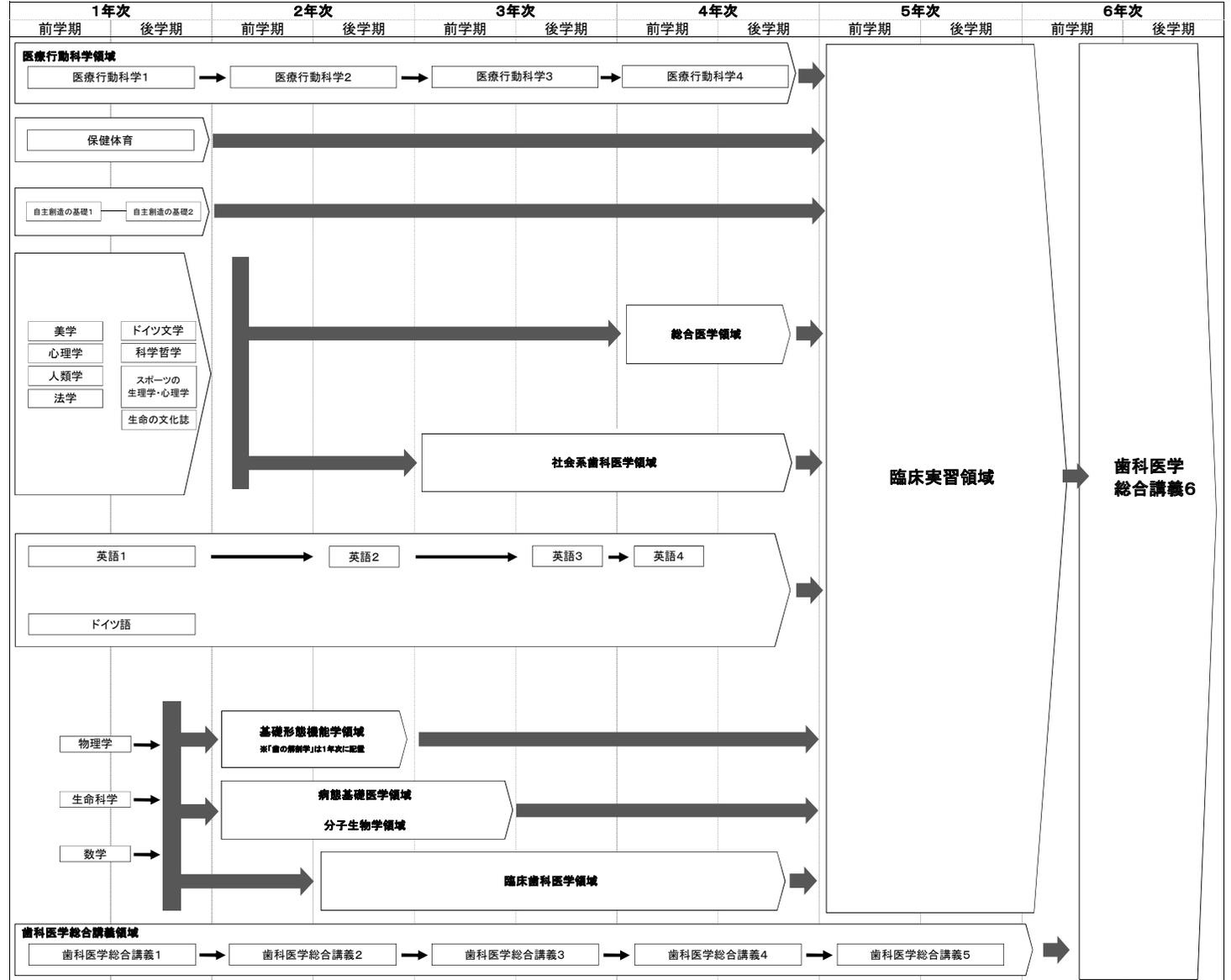


松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）(令和2年度以降入学者用)



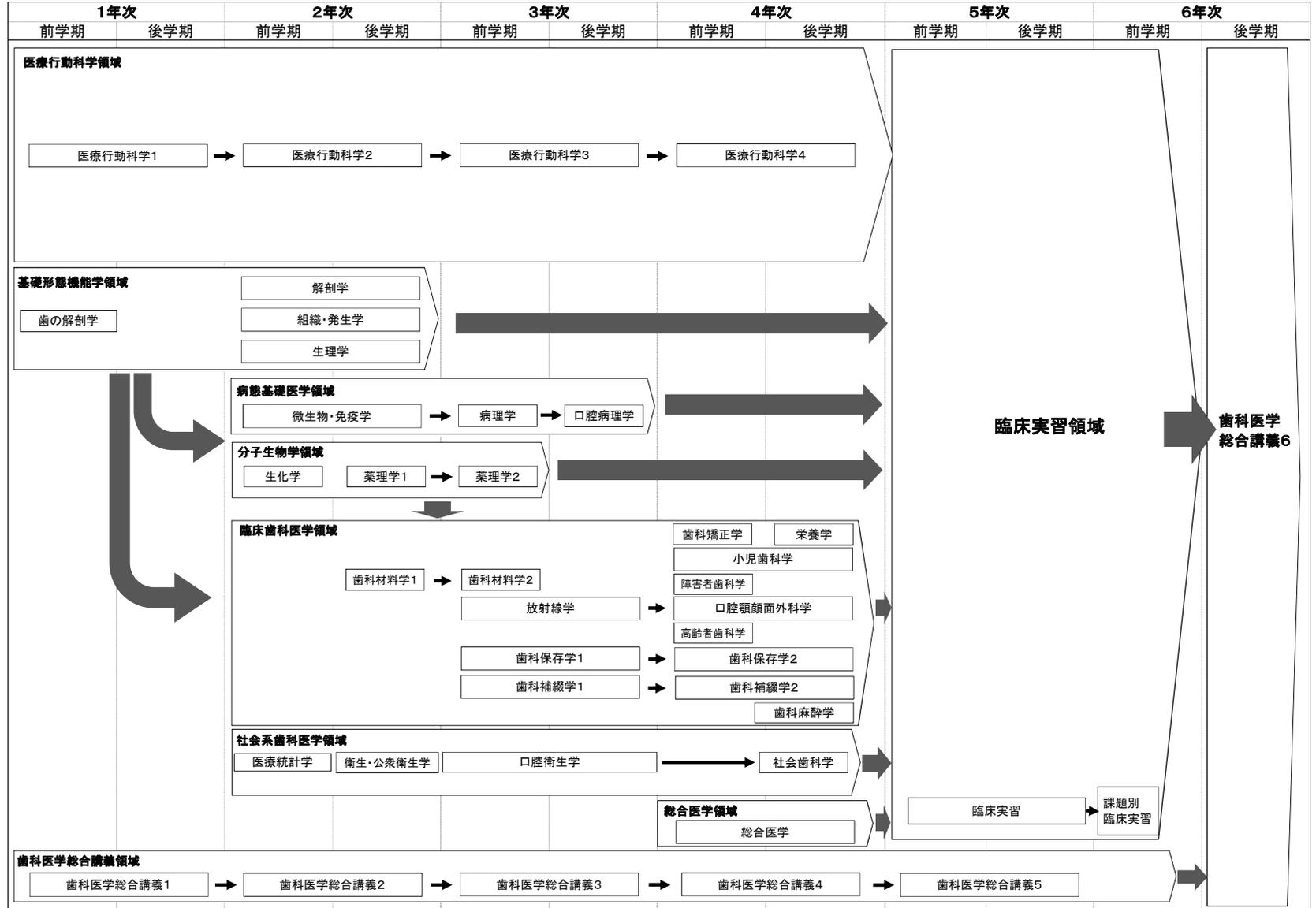
松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）(令和元年度入学者用)

科目群の学修・教育目標	関連DP
<b>医療行動科学領域</b> 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。	DP1 DP6
<b>保健体育科目</b> 健全な心身の維持・向上と、多くの実技実習等を通じた「社会性」の体得を目指した教育を展開する。	DP1
<b>教養科目</b> 歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。  ※自主創造の基礎（全学共通初年次教育科目） 「自ら考え、行動し、創り上げる」自主創造型パーソンの養成を目指した全学共通初年次教育科目である。本学の理念、歴史を理解し、大学における学びの方法の体得、学修の習慣づけを促進させる教育プログラムを1年次通年に亘り展開する。	DP1
<b>教養系領域</b> (保健体育・教養・外国語・準備教育) 保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高める。歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。「自主創造の基礎1」では、パソコンを利用した情報の処理方法や科学レポートの作成法を学修し、「自主創造の基礎2」では、問題解決の技法とグループ討議を中心とした学修を行う。外国語科目は「英語」「ドイツ語」が必修科目としている。準備教育科目の「物理学」「生命科学」「数学」においては、基礎歯科学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP2
<b>準備教育科目</b> 「物理学」「生命科学」「数学」においては専門科目への基礎のための科目と位置づけ、基礎歯科学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP4
<b>歯科医学総合講義領域</b> 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 DP4 DP8



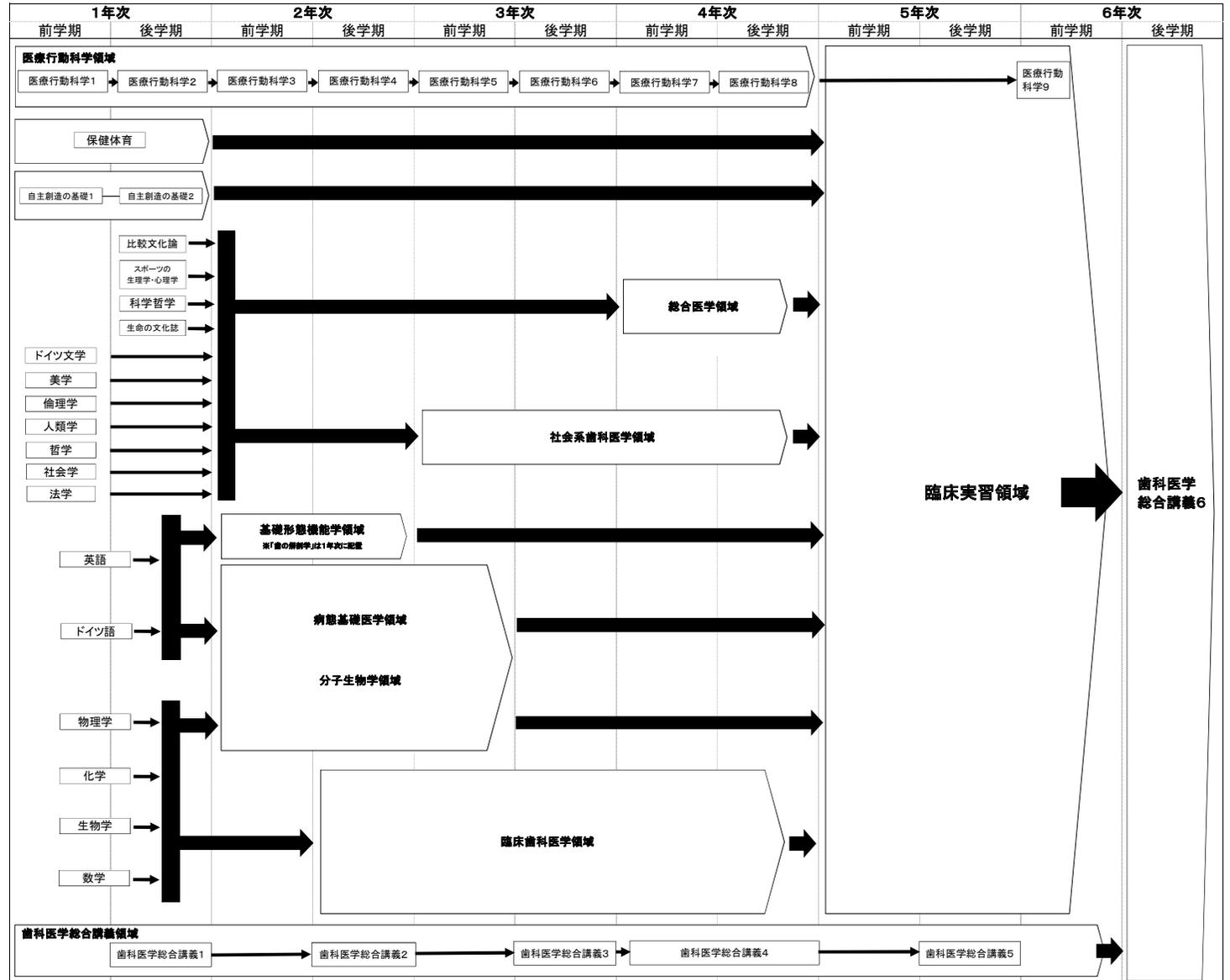
松戸歯学部 履修系統図（授業科目関連図）（令和元年度入学者用）

科目群の学修・教育目標	関連DP
<b>医療行動科学領域</b> 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修する。 <b>医療行動科学1・2</b> 1・2年次は、授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。 <b>医療行動科学3</b> [患者－医療者関係学／医療人間学] 3年次は、患者と医療者のあるべき関係について深く考え、付属病院における「患者付添実習」を通して自ら「取るべき行動指針」について学修する。 <b>医療行動科学4</b> [医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学] 4年次は、医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者と良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修する。	DP1 DP6
<b>基礎形態機能学領域</b> ※「歯の解剖学」「解剖学」「生理学」など歯科医師になるために必要となる基本的な科目を中心に、生体の構造や機能について幅広い医学知識を学修する。 ※「歯の解剖学」は1年次に履修。	DP3 DP4
<b>病態基礎医学領域</b> 病気の本質を解明するための「微生物・免疫学」「病理学」を学び、実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けて基礎知識を身につける。	DP3 DP4
<b>分子生物学領域</b> 「生化学」「薬理学」などを介して、からだの器官や組織、細胞レベルの機能や生体と薬物との相互作用を学び、からだ全体についての医学的知識を学修する。講義と実習を組み合わせて、知識と実践の両方を伴った医学・歯科医学の基礎を身につける。	DP3 DP4
<b>臨床歯科医学領域・社会系歯科医学領域</b> からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深める。さまざまな歯科疾患とその治療法を学び、多様な医療対応を修得する。さらに、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修する。	DP3 DP4 DP5
<b>総合医学領域</b> 臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ総合的に学び、「オラルサイエンス（口腔科学）」を実践するための知識・技術を統合的講義にて身につける。	DP4 DP5
<b>臨床実習領域</b> 担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけでなく、歯科医師としての態度、職業意識を身につける。	DP1 DP8
<b>歯科医学総合講義領域</b> 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を履修し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 DP8



松戸歯学部 履修系統図 (授業科目関連図)(平成30年度以前入学者用)

科目群の学修・教育目標	関連DP
<b>医療行動科学領域</b> 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を、1年次から6年次まで一貫して学修。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。	DP1 DP6
<b>保健体育科目</b> 健全な心身の維持・向上と、多くの実技実習等を通じた「社会性」の体得を目指した教育を展開する。	DP1
<b>教養科目</b> 歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。  ※自主創造の基礎 (全学共通初年次教育科目) 「自ら考え、行動し、創り上げる」自主創造型「パーソンの養成を目指した全学共通初年次教育科目である。本学の理念、歴史を理解し、大学における学びの方法の体得、学修の習慣づけを促進させる教育プログラムを1年次通年に亘り展開する。	DP1
<b>教養系領域</b> <b>(保健体育・教養・外国語・準備教育)</b> 保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高める。歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設ける。「自主創造の基礎1」では、パソコンを利用した情報の処理方法や科学レポートの作成法を学修し、「自主創造の基礎2」では、問題解決の技法とグループ討議を中心とした学修を行う。外国語科目は「英語」「ドイツ語」が必修科目としている。準備教育科目の「物理学」「化学」「生物学」「数学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP2
<b>準備教育科目</b> 「物理学」「化学」「生物学」「数学」においては専門科目への準備のための科目と位置づけ、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行う。	DP1 DP4
<b>歯科医学総合講義領域</b> 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 DP4 DP8



松戸歯学部 履修系統図 (授業科目関連図)(平成30年度以前入学者用)

科目群の学修・教育目標	関連DP
<b>医療行動科学領域</b> 歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から6年次まで一貫して学修する。	DP1
<b>医療行動科学1～4</b> 1・2年次は、授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していく。	DP1 DP6
<b>医療行動科学5・6</b> [患者－医療者関係学/医療人間学] 3年次は、患者と医療者のあるべき関係について深く考え、付属病院における「患者付添実習」を通して自らが取るべき行動指針について学修する。	DP1 DP6
<b>医療行動科学7・8</b> [医療面接・歯科臨床診断学/医療コミュニケーション学] 4年次は、医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者と良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修する。	DP1 DP6
<b>医療行動科学9</b> 6年次は、生涯学修が必要な歯科医師が、歯科医学を学ぶ科学者として備えておくべき研究マインドの育成を図る。	DP2 DP4
<b>基礎形態機能学領域</b> ※「歯の解剖学」「解剖学」「生理学」など歯科医師になるために必要となる基本的な科目を中心に、生体の構造や機能について幅広い医学知識を学修する。 ※「歯の解剖学」は1年次に履修。	DP3 DP4
<b>病態基礎医学領域</b> 病気の発症を解明するための「細菌学」「病理学」を学び、実際の歯科治療の知識・技術修得へ向け基礎知識を身につける。	DP3 DP4
<b>分子生物学領域</b> 「生化学」「薬理学」などを介して、からだの器官や組織、細胞レベルの機能や生体と薬物との相互作用を学び、からだ全体についての医学的知識を学修する。講義と実習を組み合わせることで、知識と実践の両方を伴った医学・歯科医学の基礎を身につける。	DP3 DP4
<b>臨床歯科医学領域・社会系歯科医学領域</b> からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深める。さまざまな歯科疾患とその治療法を学び、多様な医療対応を修得する。さらに、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修する。	DP3 DP4 DP5
<b>総合医学領域</b> 臨床実習前に、内科学・外科学などを主体とした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「メディコデンタルサイエンス(医学的歯科学)」を実践するための知識・技術を統合的講義にて身につける。	DP4 DP5
<b>臨床実習領域</b> 担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身につける。	DP1 DP8
<b>歯科医学総合履修領域</b> 複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とする。	DP1 DP8

